

# 有明海西南部地区ノリ養殖生産安定対策事業

岩永卓也・野口浩介

有明海西南部地区のノリ生産安定を図るため、同地区の流況および生態系モデルの構築に必要な植物プランクトンの出現状況等の調査を実施した。

## 方法

2022年10月から2023年3月にかけて、週1~3回程度の定期調査を実施した。図1に示す白石沖ブイおよび箱崎沖ブイにおいて、昼間満潮の前後2時間以内に採取した海水を持ち帰った後、*Skeletonema* spp. および*Chaetoceros* spp. の細胞密度および溶存無機態窒素（DIN）を測定した。

## 結果

2022年度ノリ養殖漁期の白石沖ブイおよび箱崎沖ブイにおける*Skeletonema* spp. および*Chaetoceros* spp. の細胞密度とDINの推移を図2および図3に示した。今漁期は10月と11月に*Chaetoceros* spp. が赤潮化した。その後、12月には*Skeletonema* spp. を主体とした赤潮が確認され、2月まで赤潮が継続していた。

白石沖ブイのDINは10月6日、10月11日、1月26日、2月17日、2月21日、2月24日および2月27日を除き、ノリの色調維持に必要とされる7μM以下であった。*Chaetoceros* spp. の細胞密度は、10月6日から11月14日まで概ね高い値を示した。*Skeletonema* spp. の細胞密度は、12月19日から増加し、1月7日にピークを迎え2月6日まで高い値で推移した。

一方、箱崎沖ブイのDINは、10月11日、2月14日および2月17日を除き7μM以下で推移した。*Chaetoceros* spp. の細胞密度は、10月6日に高い値を示した後、一時は減少したが10月21日には再度増加し11月21日まで概ね高い値を示した。*Skeletonema* spp. の細胞密度は、12月19日から増加し、2月6日にピークを迎え2月9日まで高い値で推移した。

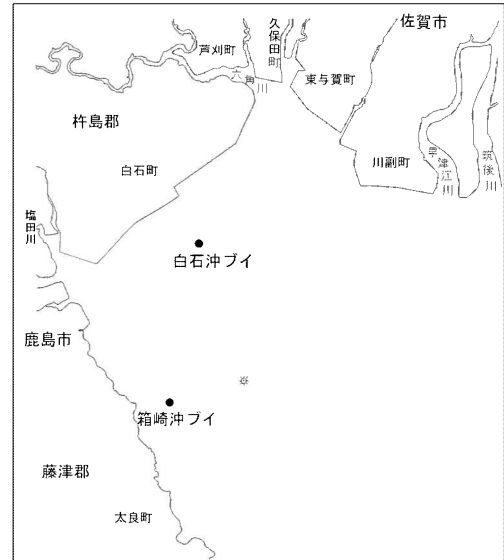


図1 海況調査地点

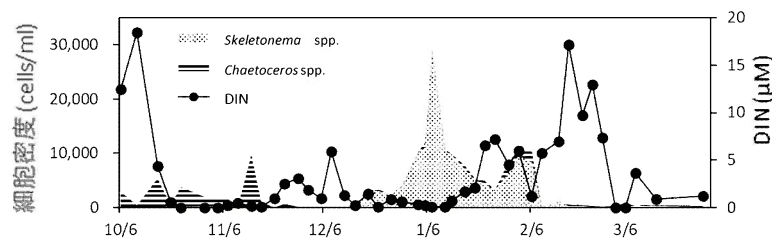


図2 白石沖ブイにおける*Skeletonema* spp. および*Chaetoceros* spp. の細胞密度とDINの推移

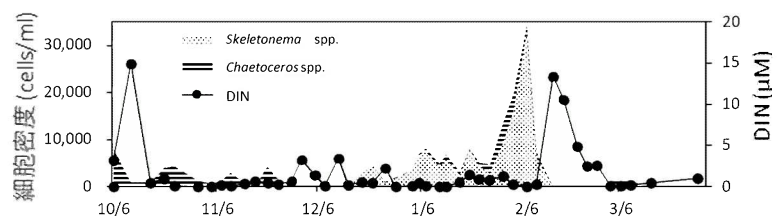


図3 箱崎沖ブイにおける*Skeletonema* spp. および*Chaetoceros* spp. の細胞密度とDINの推移